

## (20) 土木工学教育における授業モデルの検討

サイバー・キャンパス・コンソーシアム土木工学教育グループ学は、7月、9月、11月の3回開催した。

社会基盤整備の重要性を認識し、安全性、経済性、機能性、環境等多面的な視点から土木工学を考える能力を身に付けさせる授業デザインを2例とりあげることにした。

一つは、土木工学の重要性を理解させるために、現場見学の機会を増やして現実感覚を持たせ、学びが社会でどのように役に立つかをグループ学習で整理・発表・ディスカッションさせる授業モデルとした。

二つは、土木工事全体の中で安全性、経済性、機能性、環境の観点から議論させ、個々の概念や方法論が様々な側面をもっていることを理解させるために、ディスカッションを通じた学び合いを大学間及び企業を交えて行う授業モデルとした。